
迷い 2006/10/07

みなどりとうや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

迷い 2006/10/07

【Nコード】

N0192B

【作者名】

みなどりとうや

【あらすじ】

銀行に押し入った和敏が、ふとあるとき抱く迷い。自分の目的を改めて見つめなおす瞬間を描く。

和敏の指先には、明らかに迷いの色が伺えた。

引き金を引くか。引かないか。

何度も声高に警告したのに奴らは従わなかった、俺を馬鹿にしてやる、そう思い、

いざ女性行員の一人を他の奴らから引きずり寄せ、頭に拳銃を向けた途端だった。和敏は脂汗がどっと吹き出すのを感じていた。

引き金を引けば、こいつの人生は終わる。

他の奴でなくて良いのか？

今ここで震え上がっているこいつを撃って、何か打開されるのか？

既にシャッターは閉まっている。このシャッターの向こうや裏口に、警官隊が配備されているのは火を見るよりも明らかだ。

撃てばたちまち俺は包囲されるに違いないし、たとえ撃たなくても、時間が経てば俺は狙撃されるだろう……和敏はそう思った。

和敏が銀行を襲ったのは、何も金銭目当てではない。自分の会社がこの銀行からの融資を断られ、倒産の憂き目にあったからだ。誰を狙うでもない、頭取や地域担当を狙うのも筋違い。そう分かっていた。

だからこそ、和敏は迷った。今和敏が頭に拳銃を突きつけている女

性行員は、果たして関係があるのだろうか。

いや、貸し付けを決める会議になど参加できないほどに若いその行員が、自分の会社が倒産したことに関係などあろうはずもない。

和敏は、その行員の頭から銃を外し、行け、とだけ言った。女性行員は怯えきった表情で和敏を見返すが、

和敏がもう一度、今度は少し大きく「行け」と言ったのに反応して、腰が立たないのか這いつくばるようにして仲間たちの所に戻った。

その時の仲間の声は、和敏にも届いた。「よかったね」……彼の中の引き金を落とすには十分だった。

俺は会社をお前達の銀行に潰されたんだぞ、お前達のせいで女房にも逃げられたんだ、それが分かってないのか、なにが良かったんだ貴様ら。

思いは、即行動へとつながった。

ダンッ

その一発を皮切りに、12回の轟音と、引き続き15回の爆音が、銀行全体に響いた。

和敏は、自分以外の誰もが、かたまって血の海に頭を突っ込んでいる様子を見て、初めて一つ納得をした。

銀行自体に復讐するには、こうするしかなかったのだ、と。満足でもあった。

和敏は手持ちの弾丸を全て撃ち尽くして、自殺することも出来ずに、突入してきた警察隊にあっけないほど簡単に捕縛された。

「なんだこりゃ……」

警察隊の一人が捕縛の手を止めて口走った。

それも不思議ではない。

そこにあつたのは、20人近くが血の海の上で折り重なっている様
だったからだ。

誰も問いただすことはしなかった。ただ誰もがその痛ましい現場か
ら去りたかった。

そう、満足げに笑みを浮かべる和敏を除いて。

(後書き)

いわゆるweb小説の第一号です。短編ですが、読者の皆様楽しんでいただければと思い投稿しました。第2号以降もご期待ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0192b/>

迷い 2006/10/07

2010年10月11日20時57分発行